

2025 年「卒業生キャリアアンケート」調査実施報告書

2025 年 9 月吉日

東邦音楽大学キャリア支援センター

実施概要

- ・目的: 本学の教育内容や学修環境改善等の参考とする。また、在学生の進路選択の一助とするとともに、卒業生の卒業後のキャリアサポートの充実を目途とする。
- ・実施方法: アンケート回答依頼を郵送のうえ、web (Google フォーム) 回答を依頼 (回答は web のみ)
- ・アンケート対象者: 卒業後 3 年目 (令和 3 年度/R4 年(2022 年) 3 月卒業) の 61 名 (宛先不明除く)
- ・実施期間: 2025 年 9 月 2 日発送/回答締切: 2025 年 9 月 21 日
- ・回収率: 33% (回答件数: 20 件(内 4 名社会人入学生))

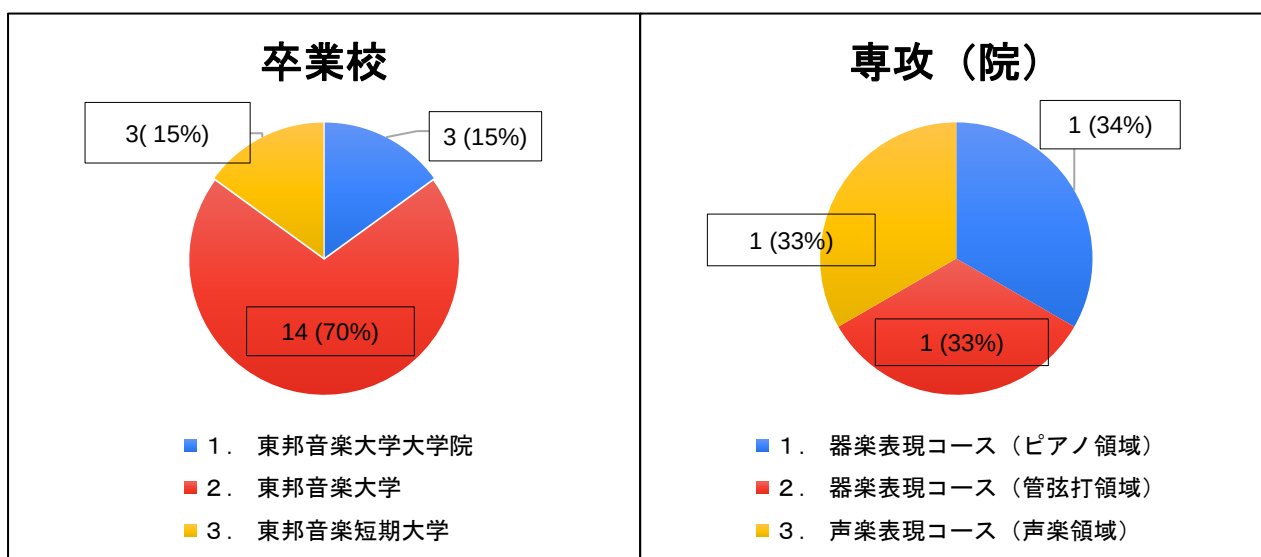
今回の回答数は 20 件 (33%) で、一般的に 20~30%に留まるとされる郵送調査の回収率¹⁾の範囲内である。回収率向上の方策として、本アンケートが教育の質向上に寄与する重要な位置づけであることを踏まえ、キャリア支援委員会をはじめ各種会議等において関係者への周知や該当卒業生への回答促進への協力を今後も依頼していき回収率増加に努める。引き続き経年比較等も含めさらなる分析を進め、継続調査を実施のうえデータを蓄積していくことが望ましい。

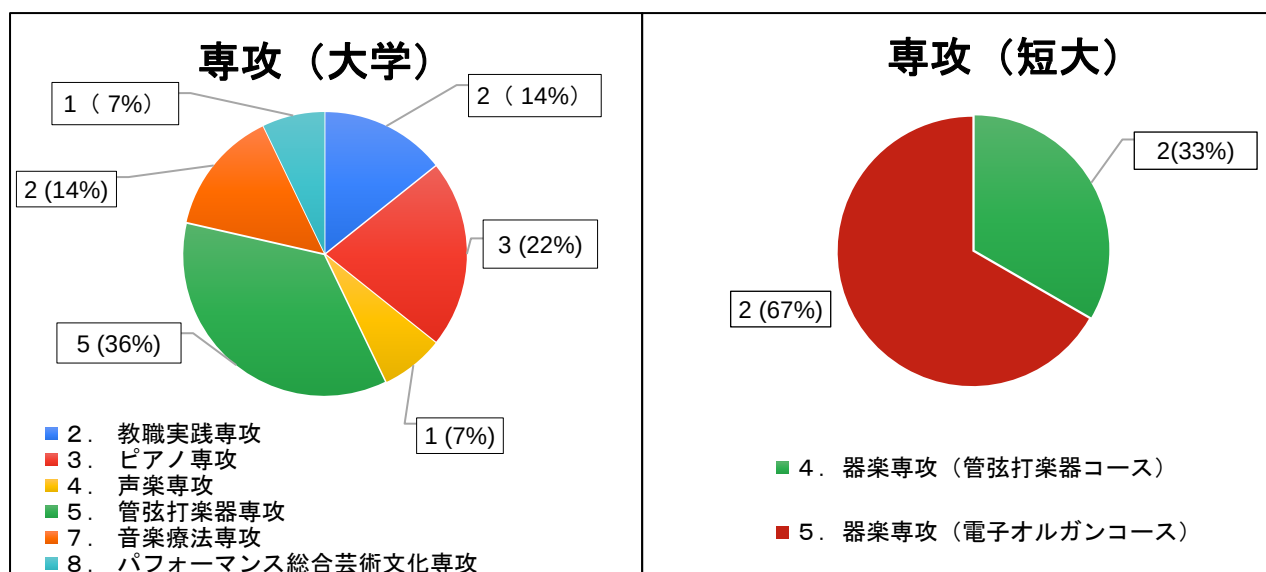
1) 大谷信介, 木下栄二, 後藤範章, 他: 社会調査へのアプローチ [第2版] 論理と方法, pp. 6-7, pp. 165-178 (2005) ミネルヴァ書房, 京都

1. 調査結果と考察

※各グラフ内における (%) の前に記載している数値は、回答人数の実数。

【Q1、Q2】 卒業校及び専攻・コース

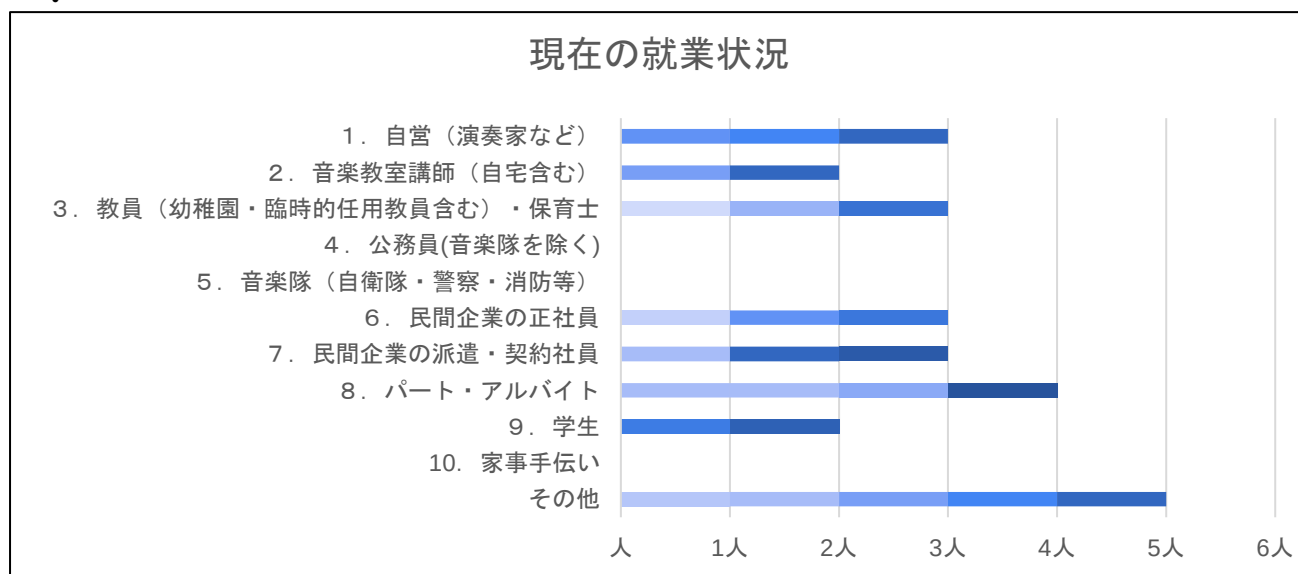




卒業校	回答数	専攻・コース
大学院	3	声楽（1）、管弦打（1）、ピアノ（1）
大学	14	教職実践（2）、ピアノ（3）、声楽（1）、管弦打（5）、音楽療法（2）、PACS（1）
短期大学	4	管弦打（2）、電子オルガン（2）

（ ）内は回答人数

【Q3】あなたの現在の就業状況についてお伺いします（複数回答）

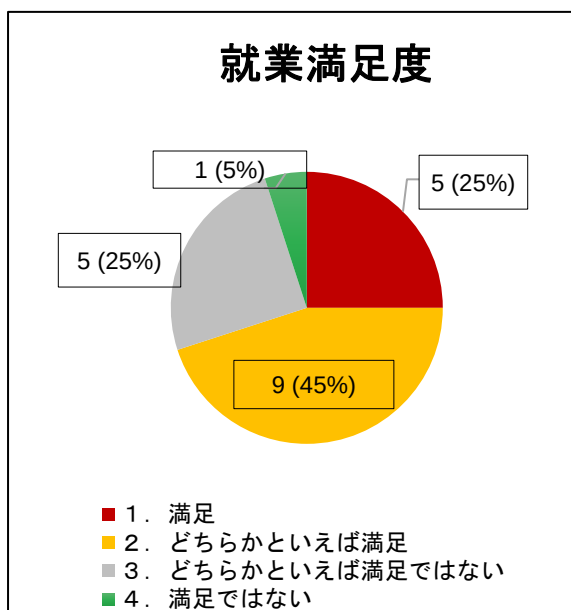


<自由記述：業界、会社名等>

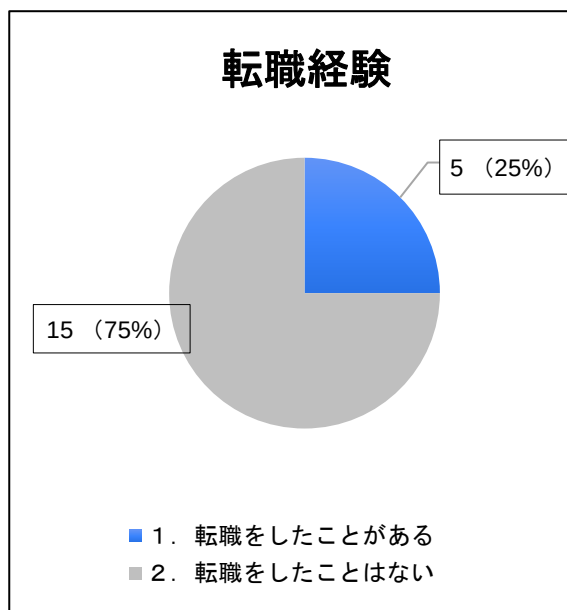
公立中学校、株式会社川越丸広百貨店、食品関係、学校法人群馬常磐学園常磐高等学校、アニメイト、上州電機有限会社（自動車整備業・保険担当）、株式会社ベネッセスタイルケア、ツクイ高齢者デイサービス、都立府中けやきの森学園教諭、メディカルケアサービス株式会社愛の家グループホームさいたま松本(介護職・契約社員)、医療社団法人ユーアイエメリー会 浦和すずのきクリニック(月 2 勤務・音楽療法士)、メンタルクリニック美波(月 1~2 勤務・音楽療法士)

母数が少ないため傾向を見出しにくいですが、今年度は突出して多い項目がなく様々な就業状況にあるといえる。(2021 年、2022 年、2024 年は、「音楽教室講師」が最も多く、2023 年は「民間企業の正社員」が突出していた)。就業状況と他項目との相関については、今後、過年度データを総合的に分析することで新たな知見が得られると推察する。

【Q4】現在の就業状況に満足していますか

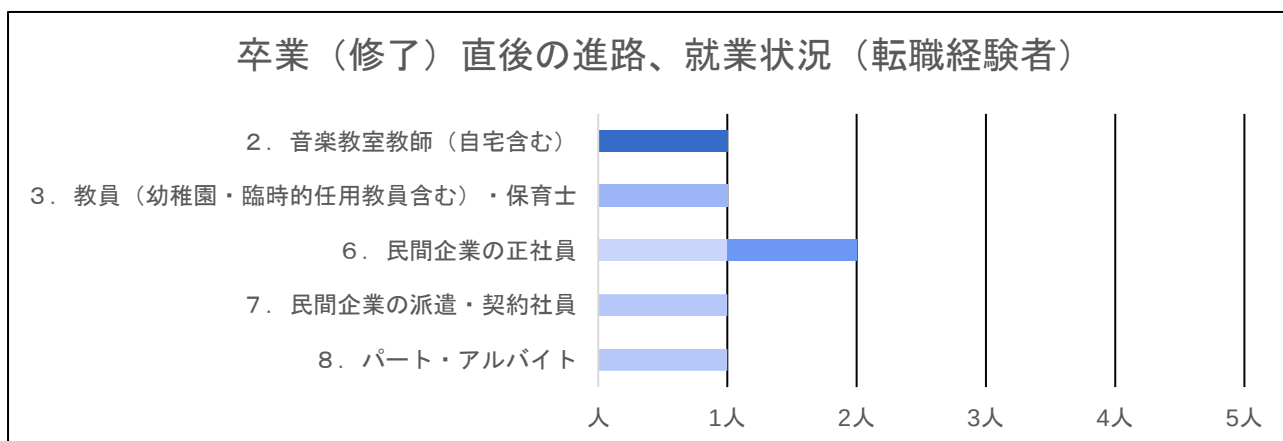


【Q5】卒業（修了）直後からこれまでに、転職をしたことがありますか



現在の就業状況では「満足」、「どちらかといえば満足」を合わせると 70%であった（2021 年 100%、2022 年 91%、2023 年 80%、2024 年 94%）。過去 5 年においては、2023 年の 80%より低い結果となっている。また、転職経験があると回答したのは 20 名中 5 名（25%）であり、一般的に言われる 3 年以内に 3 割とされる転職率と同程度である。一方で、2021 年 30%、2022 年 36%、2023 年 48%と転職経験者が微増傾向の中で、2024 年度（6%）に次いで低い結果ではあるが経年推移を注視したい。

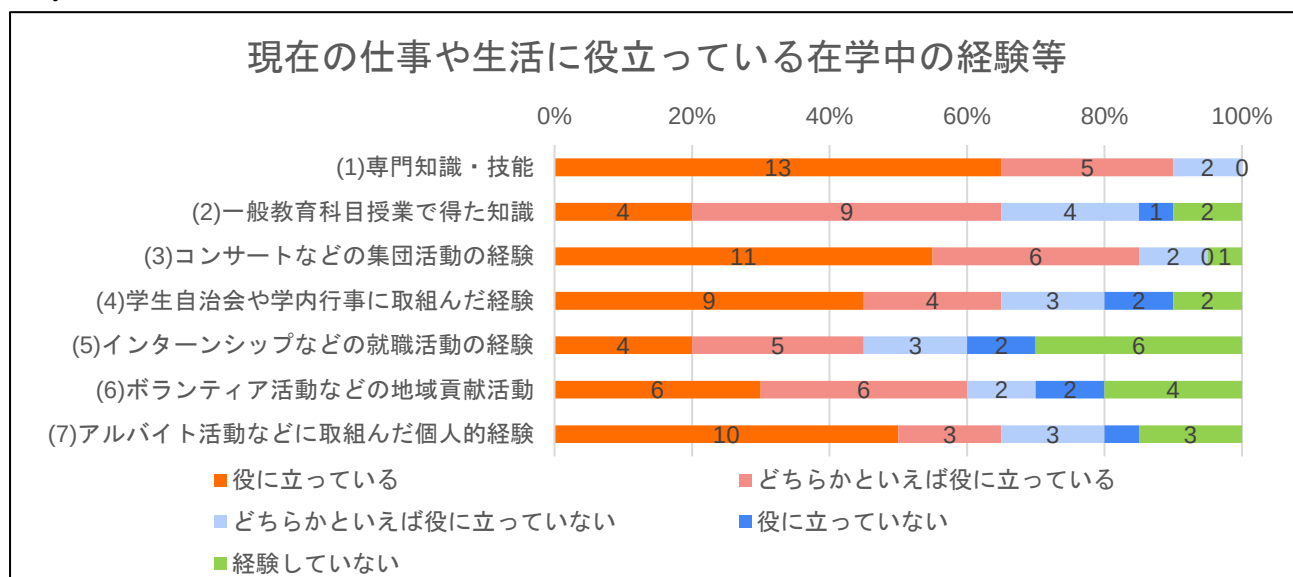
【Q6】卒業（修了）直後の進路、就業状況についてお伺いします（Q5 において、「転職経験あり」と回答した者（複数回答））



<自由記述：業界、会社名等>

株式会社ワークス、音楽教室受付事務、共愛学園高校専任講師、公立中学校臨時的任用教諭、高崎自動車販売株式会社

【Q7】在学中に経験した次の事柄は現在の仕事や生活に役立っていますか



「役に立っている」が単独で高かったのは、2022、2024 年同様に「(1)専門知識・技能」であり、次いで「(3) コンサートなどの集団活動の経験」であった（2023 年は「(7)アルバイト活動などに取組んだ個人的経験」）。2024 年では、「音楽教室講師」が回答属性において多くを占めていることも影響していると推察されたが、今年度は回答属性にバラつきがあるものの同様の結果であった。本学の学びの特徴でもある「(1)専門知識・技能」および「(3)コンサートなどの集団活動の経験」は、経年においても上位に位置しており、回答属性に関わらず卒業生にとって有益な経験と位置づけられていることが伺える。

【Q8】在学中に、このようなキャリア支援があればよかったなどありましたらご記入ください

1-1	音楽家だけでなく、音楽教育・音楽療法・音響・舞台制作・企画・音楽事務所・楽器メーカーなど、幅広いキャリアパスの紹介(大学/管弦打楽器/中学校教諭)※
1-2	音大生向けの 企業インターンシップ紹介(大学/管弦打楽器/中学校教諭)※
1-3	キャリアカウンセリング。(大学/管弦打楽器/中学校教諭)※
1-4	音楽を続けたいが、就職も考えたい学生向けの 両立プラン作成サポート(大学/管弦打楽器/中学校教諭)※
2	社会人向けのお仕事紹介(大学(社会人)/ピアノ/専業主婦)※
3-1	【お金周り】 ・確定申告のやり方、青色申告、経費の考え方 ・フリーランスとしての税金・年金・保険の仕組み(国保、国民年金基金、小規模企業共済など)

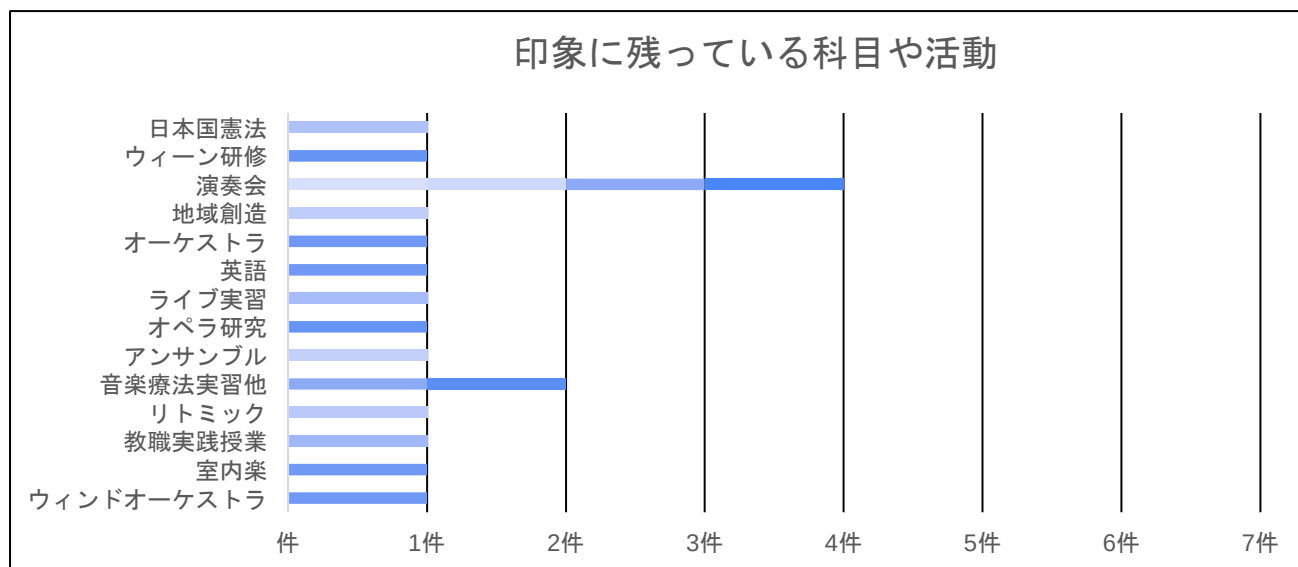
	・ギャラの相場感、契約書の読み方 (大学/管弦打楽器/自営・教室講師・契約社員)
3-2	【ビジネスマナー】 ・メールや請求書の書き方 (演奏依頼の返信、請求書フォーマット etc..) ・仕事の依頼を受けるときの注意点(口約束ではなく文書で残すなど) (大学/管弦打楽器/自営・教室講師・契約社員)
3-3	【SNS での自己発信の仕方】 ・SNS での活動発信の仕方、プロフィールの書き方 ・ポートフォリオや簡単なホームページの作り方 ・動画・録音の基礎(宣伝やオーディションに必要な)ミキサーの使い方 (大学/管弦打楽器/自営・教室講師・契約社員)
3-4	【ライフスキル】 ・案件が重なったときのスケジュール調整法 ・副業や副収入の作り方(指導、アレンジ、演奏以外の収入の柱) (大学/管弦打楽器/自営・教室講師・契約社員)

注) 自由記述を抜粋のうえ転載。() 内は回答者学校種。※については既実施。

「1-1~4」については、「東邦スタンダード」「キャリア支援センターによるガイダンス」「キャリア支援センターでの個人面談(国家資格保有のキャリアカウンセラーが常駐)」等において実施している。

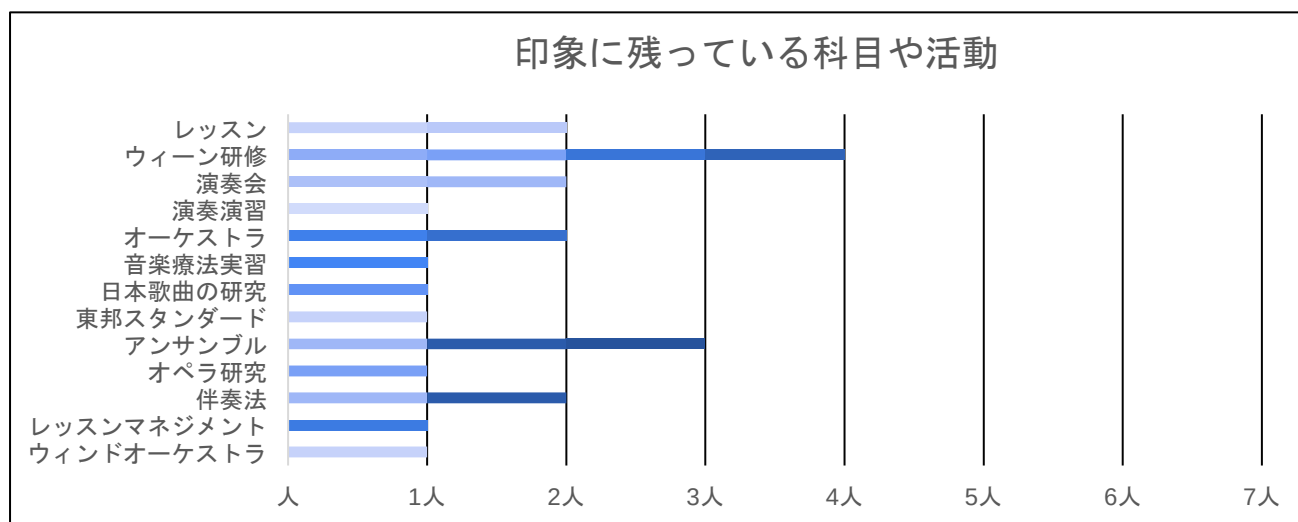
「2」についてもキャリア支援センターでの個人面談において要望があれば適宜対応しているが、本学における「社会人学生」の幅も広く、広範なサポートが難しい側面もある。「3-1」「3-2」については、「東邦スタンダード」「キャリア支援センターによるビジネスマナー講座」等で実施している内容もあるが、過年度にも同様の記述があったことも踏まえ、「3-3」「3-4」も含めフリーランスでの活動を視野に入れている学生を対象にさらに特化した内容を東邦スタンダードやキャリア支援センターによる講座等で実施をすることも今後の課題としたい。

【Q9】 在学中に印象に残っている科目や活動（演奏活動含む）はどのようなことですか（複数回答）



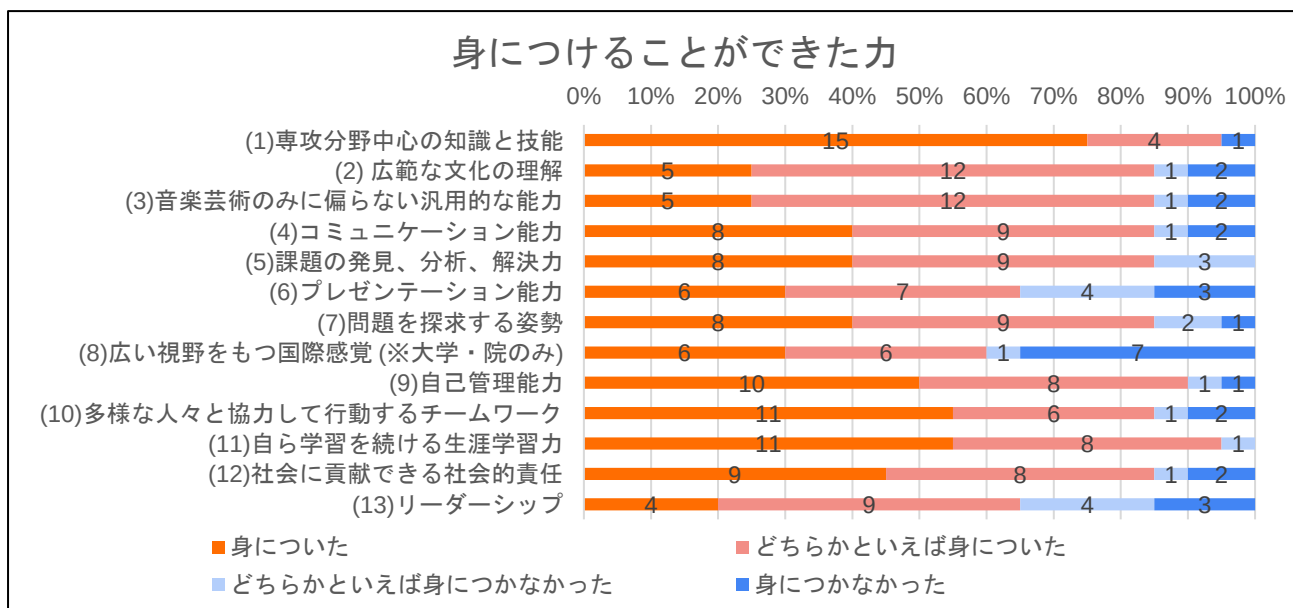
注）自由記述を分類分けしグラフ化

【参考：2024】



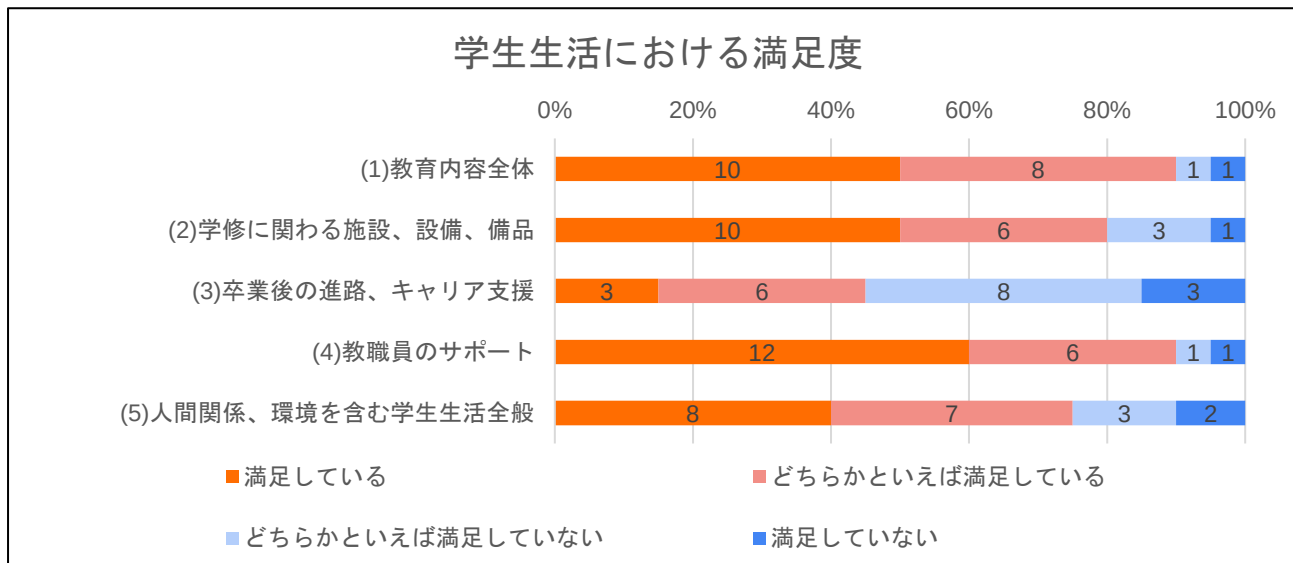
今年度は「演奏会（4件）」に関連する記述が最も高い結果であった。実施年ごとに回答に挙げられる科目等が異なるため、単年での差異は見出しにくいだが、2024年は「ウィーン研修（4件）」が最も高く次いで「アンサンブル（3件）」であった。また、音楽大学の特徴である音楽実技系科目が多く挙げられている傾向は今年度も同様であった。

【Q10】 本学で身に付けることができた力について伺います



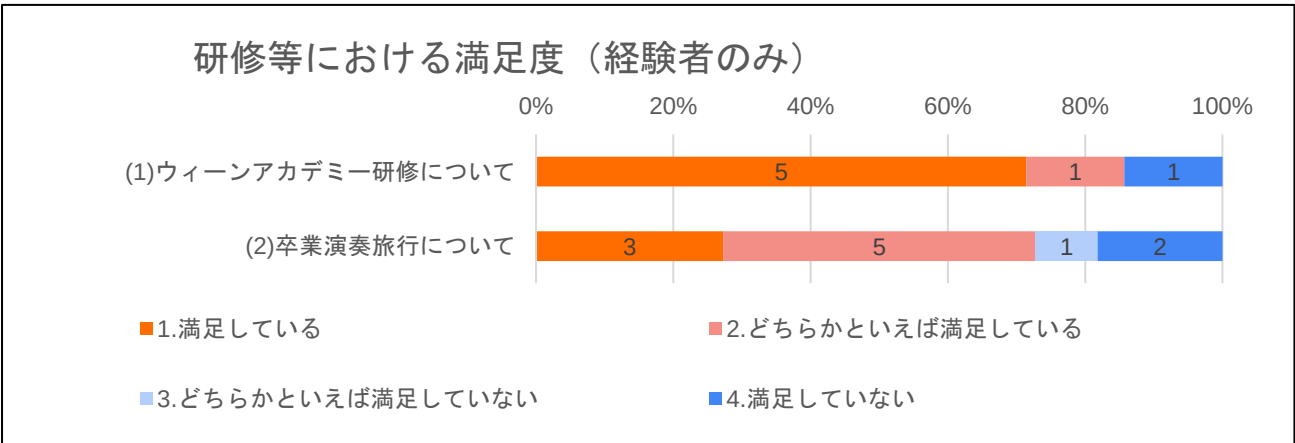
「身についた」が単独で最も高かったのは「(1)専攻分野中心の知識と技能（75%）」であり、2022～2024 年も同様であった。次いで、「(10) 多様な人々と協力して行動するチームワーク（55%）」「(11) 自ら学習を続ける生涯学習力」（2022～2024 年は「広範な文化の理解」）であった。「身についた」単独の 2024 年との比較では、「(2) 広範な文化の理解」が 60%から 30%と半減しているが、コロナ禍においてウィーンアカデミー研修が例年とは異なる形式での実施であった学生達（大3年次：2020 年 4 月）であることが影響していると推察されるため今後の推移を注視したい。また、「身についた」、「どちらかといえば身についた」を合わせると 13 項目中 10 項目で 80%（2023 年は 7 項目、2024 年は 9 項目）を超えており、本学がディプロマポリシーで求めている能力を学生が達成できるよう、また大学として音楽大学の特性を活かした学びを提供できるようにカリキュラム等の検討が引き続き望まれる。

【Q11】 本学での学生生活における満足度について伺います



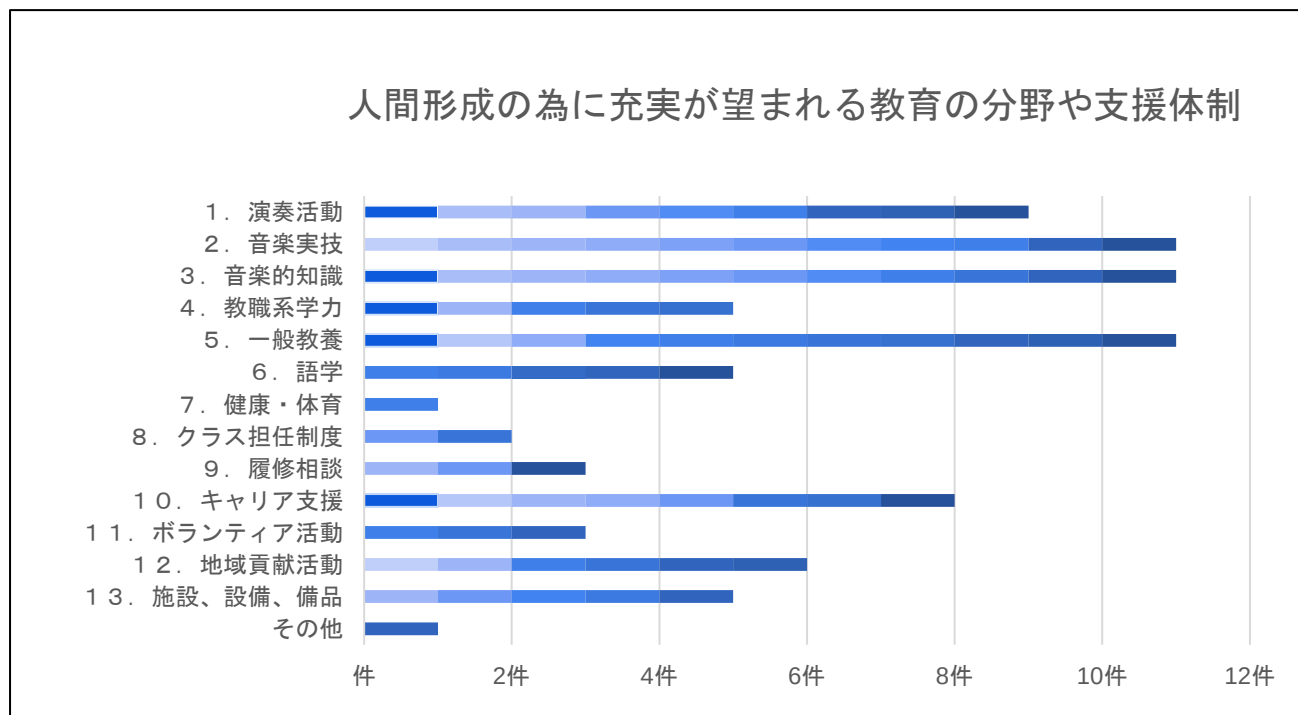
「満足している」が単独で最も高かったのは、2023、2024 年同様「(4)教職員のサポート (60%)」であった。「どちらかといえば満足している」を合わせると、「(1)教育内容全体 (90%)」と「(4)教職員のサポート (90%)」が最も高い結果であった。また、5 項目中 4 項目において、約 70%が満足している（「どちらかといえば満足している」を合わせる）結果であった。「(3) 卒業後の進路、キャリア支援」については、昨年の 70%から 50%に減少しているが、「【Q4】現在の就業状況に満足していますか」の回答において例年よりも満足度が低いことも影響していると推察されるため、経年に注視したい。

【Q12】 本学での以下の経験における満足度について伺います



ウィーンアカデミー研修を経験した者のみ（20名中7名）の回答では、70%が満足している結果であった（2020～2024年は80%以上）が、コロナ禍における実施形態の変化により、履修者の中には「経験していない」と回答した者が含まれる可能性も推察されることに留意したい。また、卒業演奏旅行では、2024年は経験者の6割が満足していない（どちらかといえば満足していないと合算）結果であったが、今年度は3割弱に留まる結果であった。コロナ禍の影響と併せて母数が少数であることもあり経年に注視したい。

【Q13】 本学での学生生活を振り返って、人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制について伺います（複数回答）



「(2)音楽実技」「(3) 音楽的知識」「(5) 一般教養」が同数（11 件）で最も高く、次いで「(1) 演奏活動（9 件）」であり例年と概ね同傾向である。また、「(3) 音楽的知識」「(10) キャリア支援」「(12) 地域貢献活動」においては、昨年比で 2 倍程度高くなっているため、経年に注視したい。

【Q14】 本学へのご意見ご要望などございましたら、ご自由にご記入ください

- ・私の様な音楽素人の社会人が、学びたいと思った時に学べる環境は素晴らしい。専攻だけではなく、音楽を広範囲に学習、一流の先生方によるご指導、色々な楽器に触れる、充実した施設設備の利用、音楽大学大学ならではだ。入学は敷居が高くて、学びたいと思っている人は多いと思う。
- ・公開講座などもっと一般に公開し、市や県などと協力し広報活動を広げ、多くの人に大学の活動を知ってもらいたい。埼玉の関東の音楽文化の財産になって欲しい。
- ・2027 年が飛躍の年となりますよう、期待しております。
- ・語学で使う会話のフレーズをもっとしっかり学んでおけば良かったなと思いました。文法よりもまず単語と会話のフレーズを重点的に学んでいけば、外国に行った時に苦労しなくて済んだな。と後悔したので、単語とよく使う会話フレーズを覚える事をお勧めしてあげてください。
- ・文京キャンパス閉鎖後も、練習室や記念館など(できれば図書館も)一部使用可能にして頂けると有難いです。

2. まとめ

本調査から、得られた示唆は以下のとおりである。

- (1) 現在の就業状況(Q4)では、70%が満足しており(「満足」、「やや満足」を合算)、昨年(2024年)の94%から24%ポイントの減少となり、過去5年において2023年の80%より低い結果であった。また、転職経験者(Q5)は20名中5名(25%)であり、一般的な離職率の3割と同程度である。2021年30%、2022年36%、2023年48%と転職経験者が微増傾向の中で、2024年(6%)に次いで低い結果ではあるが経年推移を注視したい。
- (2) 本学で身に付けることができた力(Q10)では、「身についた」が最も高かったのは「専攻分野中心の知識と技能(75%)」であり、2022～2024年も同様であった。次いで、「多様な人々と協力して行動するチームワーク(55%)」「(11)自ら学習を続ける生涯学習力(2022～2024年は「広範な文化の理解」)であった。また、「広範な文化の理解」では、昨年(2024年)の60%から30%と半減しているが、コロナ禍においてウィーンアカデミー研修が例年とは異なる形式での実施であった学生達(大3年次:2020年4月)であることが影響していると推察されるため、今後の推移を注視したい。「身についた」、「どちらかといえば身についた」を合わせると13項目中10項目で80%(2023年は7項目、2024年は9項目)を超える結果であった。ディプロマポリシーに掲げているように、音楽の専門技能を身に付けるだけでなく、音楽での学びを通じて学生が課題解決力や表現力を身に付けられるように、音楽大学の特性を活かしたカリキュラムを充実させることが望まれる。
- (3) 学生生活における満足度では(Q11)、5項目中4項目において、約70%が満足している(「どちらかといえば満足している」を合わせる)結果であった。2021～2023年では、5項目中3項目(「教育内容全体」、「教職員のサポート」、「学修に関わる施設、設備、備品」)で、約90%が満足している(「満足している」、「どちらかといえば満足している」を合算)と回答があり、昨年(2024年)は2項目で約80%(「教育内容全体」、「教職員のサポート」)であったが、今年度は、同2項目で90%の満足度であった。「卒業後の進路、キャリア支援」については、昨年の70%から50%に減少しているが、現在の就業状況(Q4)に関する回答において例年よりも満足度が低いことも影響していると推察されるため、経年に注視したい。
- (4) ウィーン研修・演奏演習(Q12)について、ウィーン研修では、満足している割合が70%であった(2020～2024年は80%以上)。演奏演習では、昨年(2024年)は経験者の6割が満足していない(どちらかといえば満足していないと合算)結果であったが、今年度は3割弱に留まる結果であった。どちらの項目においてもコロナ禍での授業実施形態の変化や母数が少ないことも鑑み、経年推移に注視したい。
- (5) 人間形成の為に充実が望まれる教育の分野や支援体制(Q13)では、「音楽実技」「音楽的知識」「一般教養」が同数(11件)で最も高く、次いで「演奏活動(9件)」であり、例年と概ね同傾向であった。本学が音楽大学であるという特性を鑑みても音楽分野の教育・支援体制について、一層の充実が望まれることが示された。また、「音楽的知識」「キャリア支援」「地域貢献活動」においては、昨年(2024年)比で約2倍高くなっており、今後の推移に留意したい。

以上